

「事業名：東北大学の復興知を活かす葛尾村の創造的復興」 2019年度事業の概要

東北大学 連携市町村：葛尾村
現地拠点：双葉郡葛尾村大字落合字菅ノ又14-2

事業のポイント

2016年の全村避難解除の日から葛尾村の復興に関わってきた、東北大学大学院農学研究科・東北復興農学センターが、東北大学の復興知を強化しつつ実施する、葛尾村の復興と地域課題の解決策の模索活動です。葛尾村の復興の事例は、県内の地域復興のみならず広く世界中の地域課題解決策として応用が期待できるものになるはずで

す。本取り組みでは、今年で第6期を迎える、市民解放講座（リカレント教育）、単位認定カリキュラムである「復興農学講義」「被災地エクステンション」「復興農学フィールド実習」「IT農学実習」を軸に、福島県内等の大学と連携してこれを実施することがポイントです。

2019年度の活動内容

復興農業マイスターによる葛尾村での活動(2018年度)→

東北復興農学センターの受講生に加え、東北大学の学生・留学生・研究者を主な対象とする、「復興農学講義」「被災地エクステンション」「復興農学フィールド実習」「IT農業実習」といったカリキュラムの一部を葛尾村で実施する。これに福島県内の大学等とコラボすることで、将来的に共有可能な教育プログラム（カリキュラム）を整備するための実績を積み上げる。

ヴァーチャルリアリティや、オーグメンテッドリアリティなどのITを導入し、遠隔でも臨場感があり、かつ教育効果の高い教育・実習メソッドを実践的に開発する。

これまで東北大学として実績のある復興知である「菜の花プロジェクト」や「木質バイオマスの飼料化」などのナレッジを発展させつつ、教育コンテンツ化することを目指します。

社会的に注目度の高い再生可能エネルギー利用（RE100）や、SDGsなどの理念を導入し、新しい教育コンテンツの開発を目指します。



取り組みによって得られる成果

東北大学の留学生による葛尾村見学(2018年度)→

- 東北大学を起点としつつも、福島県内の大学等とコラボして人材育成に当たるカリキュラムの設定につながる。
- 浜通り地域内に、そうしたカリキュラムの実践拠点を構築できる。
- 上記実践拠点の構築により、地域密着型・課題解決型の教育・人材育成が可能となる。
- 上記カリキュラムの実践により、葛尾村の地域復興にも寄与する。
- 大学生等によるインターンシップの活性化につながることも期待される。